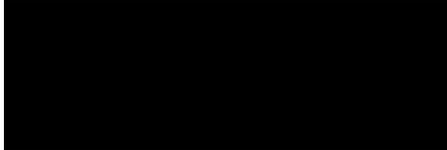


第2学年1組 体育科学習指導案



1 単元名 ぴよんぴよんランドであそぼう！ (C 走・跳の運動遊び イ 跳の運動遊び)

2 児童の実態・教師の授業への意図と手立て

<p>児童の実態</p>	<p>○ ■人中■人が体育の授業が楽しい、少し楽しいと答えており、これまでの体育的活動においても大変意欲的に取り組んできている。</p> <p>○ 1年時の跳の運動遊びでは、川跳びとケンパー跳び遊びに取り組んでおり、より遠くに跳ぶ楽しさを理解している。</p> <p>○ 個々の運動能力に大きな差があり、自分に適した運動に親しもうとする意欲も個人差が見られる。</p>	<p>教師の授業への意図と手立て</p>	<p>○ 体育の授業があまり楽しくないと答えた児童の理由として「競争するのが嫌だから」「運動した後、疲れるから」が挙げられる。運動が苦手で、他の人よりも時間がかかったり、きつかったりするという不安感を抱いている。その手立てとして、多くの場を準備し、自分のやりたい場所でやりたいことを行えるようにする。達成型の授業を仕組むことで、誰もが「やった」と感じられるような授業にしたい。その中で教師は、動きのこつを探るような個別の声掛けを意識していく。また、自分のタイミングで休憩したり水分補給したりできるようにし、自ら意思決定しながら活動する機会を増やしていく。</p> <p>○ 幅跳び系の運動遊びに加え、高跳び系の運動遊びにも低学年のうちに、その楽しさに触れさせられるよう、「ゴム跳び遊び」「跳び箱飛び乗り遊び」の場を設定した。「より高く跳ぶためには？」と問いかけ、同じ跳ぶ動作でも、「助走をつける」と勢いがつくね」「着地は、片足がいい時と両足がいい時があるね」などの共通点・相違点があることを考えさせたい。</p> <p>○ 運動に慣れる工夫として、学習の初めに主運動につながる運動遊びを教師主導で一斉に行い、跳び遊びの動きを確かめさせると同時に、児童の不安感を解消させたい。 「スキップ」…前方や上方にリズムよく連続して跳ぶ 「グリコじゃんけん」…主運動への慣れ 「言うこと一緒、やること一緒遊び」…友達との関わり 主運動は、1時目に4つの場を提示して説明した後、グループに分かれて活動し、全ての場を経験できるようにする。2時目以降は状況を見ながら、グループではなく、個人で自分に適した場や運動を選ばせたり、場を2つ増やし、挑戦意欲を高めたりする。「この場でやりたい」「できるようになりたい」という自分発信による活動を通して、運動遊びの楽しさに触れさせたい。</p>
--------------	--	----------------------	---

<p>○ グループや学級がより楽しめるように、きまりや場の工夫について話し合う経験を積んできている。また、学習カードを使用し、授業の最後に振り返り等を発表し合う経験をしている。しかし、活動の中で対話しながらよりよくしようという姿は、一部の児童に限られている。</p> <p>○ 体育の学習では1年時から「主運動につながる運動遊び→めあての確認→活動→振り返り」の学習形態で行ってきており、見通しを持って活動できている。</p> <p>学習カードには、振り返り時に「よかったこと」「こまったこと」を書く経験をしている。</p>	<p>また、学習を進める中で、単元の締めくくり方を児童と話し合うこと時間を設ける。その際、体育の見方・考え方である「する・見る・支える・知る」の視点を働かせられるような授業展開にしたい。</p> <p>○ 友達との対話を生む手立てとしては、動きの視点を与え、言語化できるようにしたい。本単元の共有したい動きの視点を「助走」「踏切」「腕」「着地」とし、友達と話し合う場面や振り返りの場面で自分の言葉で説明できるような力を高めていく。</p> <p>また、必然的に友達と話し合う場面づくりを行う。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グループで跳び遊びの活動をする場面 ② 3級を超える場づくりの場面 ③ 単元の締めくくり方について <p>である。技能基準の設定が、単に、できるかできないか、のレベルで終わらせず、児童がめあてを決める際の材料にしたり、協同的な学習の手助けとなったりできるようにしたい。</p> <p>○ 学習カードにはめあてと振り返りを書かせるようにする。そこには「できるようになったこと」「友達と協力してうれしかったこと」「できるようにする工夫」を書くようにする。学習カードは、全学年共通のもので言葉が少し難易であるため、2年生には「よかったこと」「分かったこと」「友達とのこと」「次がんばりたいこと」「疑問に思ったこと」を書かせるようにする。体育に限らず、他教科でもこの視点を持たせ、振り返りを積み重ねることで、運動、友達、自分との関係を意識させるようにし、自己の成長に気付かせるようにしたい。</p> <p>また、運動有能感の変化を数値の変化として見取るようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 楽しかったか。 ② めあてにむかって、たくさん汗をかいたか。 ③ 「できない」が「できる」に近づいたか。 ④ きまりを守って友達と仲良く運動できたか。 ⑤ 友達と話し合って工夫できたか。 <p>児童の自己評価を蓄積することで、個別指導と授業改善に生かせるようにしたい。</p>
--	--

3 本領域の系統表

	低学年 (走・跳の運動遊び)	中学年 (走・跳の運動)	高学年 (陸上運動)
知識及び技能	走・跳の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな方向へ走ったり、低い障害物を走り越えたり、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりするなどの基本的な動きを身に付けることができる。	走・跳の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、かけっこ・リレー、小型ハードル走、幅跳び、高跳びなどの基本的な動きや技能を身に付けることができる。	陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びなどの基本的な技能を身に付けることができる。
思考力、判断力、表現力等	走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	自己の能力に適した課題も解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性	進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができる。	進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。	積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

4 単元の目標

- (1) いろいろな跳び遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 跳び遊びの遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 跳び遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び遊びの行い方について言ったり書いたりしている。 ②助走を付けて片足で踏切って前方や上方に跳ぶことができる。 ③片足や両足で連続して跳ぶことができる。	①自己に適した場を選び、跳び遊びの遊び方を工夫している。 ②友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	①跳び遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。 ③友達と一緒に用具の準備や片付けをしようとしている。 ④場や用具の安全に気を付けている。

6 指導と評価の計画（6時間）

学年		1年				
時		1	2	3・4	5	6
学習過程	①単元の学習内容と本時のめあて確認	①主運動につながる運動遊び ・スキップ ・グリコじゃんけん ・言うこと一緒、やること一緒遊び	②本時のめあて確認	②本時のめあて確認	②本時のめあて確認	②本時のめあて確認
	跳び遊びに慣れよう。		跳び遊びに慣れよう。	びよんびよんランドをたくさんクリアしよう。	びよんびよんランドを楽しもう。	
	②主運動につながる運動遊び		③いろいろな跳び遊びに取り組む。 (グループ活動)	③いろいろな跳び遊びに取り組む。 (個での活動)	③いろいろな跳び遊びに取り組む。 (場を増やす)	③活動してきたことを生かし、2学年合同で活動する。
	③いろいろな跳び遊びを知る。 (グループ活動)					
		④本時のまとめ ・学習カードの記入 ・振り返り ・次時の確認				
評価の重点	知		③ (観察)			① (観察・ノート)
	思			① (観察・ノート)		
	態	④ (観察)			① (観察)	

学年		2年			
時		1	2	3・4【本時】・5	6
学習過程	①単元の学習内容と本時のめあて確認	①主運動につながる運動遊び ・スキップ ・グリコじゃんけん ・言うこと一緒、やること一緒遊び	②本時のめあて確認	②本時のめあて確認	②本時のめあて確認
	跳び遊びに慣れよう。		びよんびよんランドをたくさんクリアしよう。	自分のやりたい遊びを選ぼう。	びよんびよんランドを楽しもう。
	②主運動につながる運動遊び		③跳び遊びに取り組む。	③いろいろな跳び遊びに取り組む。 (個での活動) (場を増やす) (場の工夫)	③活動してきたことを生かし、2学年合同で活動する。
	③いろいろな跳び遊びを知る。				
		④本時のまとめ ・学習カードの記入 ・振り返り ・次時の確認			
評価の重点	知			② (観察)	① (観察・ノート)
	思			② (観察・ノート)	
	態	④ (観察)	③ (観察)		② (観察)

7 本時について（本時4／6）

(1) 目標

- ・友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 準備物

ステップ、マット、コーン、ゴム、跳び箱、ダンボール、電子黒板

(3) 展開

学習活動	教師の働きかけ (○) 予想される児童の思い (・) 評価 (◆)
1 主運動につながる運動遊びを行う。(3分)	○6つの場をグループで1回ずつ跳ばせる。無理せず、正確に跳んでいくように伝える。
2 前時の振り返りとめあての確認(7分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">じぶんのやりたいあそびをえらぼう。</div> <p>○前時の振り返りから、いくつか紹介し、学びを共有する。 ○本時は、スモールステップでの目標を設定したチェックシート（1～3級）から選んで、跳び遊びに挑戦したり、より難易な場作り（4級）をして跳び遊びを楽しんだりすることを伝える。 ○場作りを行う際は、友達と協力しながら工夫できるように呼びかける。</p>
3 活動を行う。(25分)	<p>○児童がそれぞれめあてを持って、活動しているかを見取る。活動に入るのが遅い児童には、めあてを学習ノートに書いているか確認する。 ○めあてを達成した児童を称賛すると同時に、新たなめあてを持って活動していくよう、促す。 ○活動状況を見て、3分間の話し合いタイムを取る。グループで「より高くより遠くに跳ぶためにはどうすればいいかな」をテーマに自由に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットをつなげて川を広くして跳んでみたよ。 ・跳び箱を強く蹴ると遠くまで跳べるよ。 ・跳び箱に飛び乗る前に、腕を振るといいよ。 <p>◆ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。(観察・ノート)【思考・判断・表現】</p>
4 本時の学習を振り返る。(8分)	<p>○よかったことや困ったことを発表する機会をつくり、自分の成長や友達の考えのよさに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールを3つも飛び越せてうれしいな。 ・〇〇さんがこつを教えてくれたから、できたよ。 ・片足より両足で着地する方が遠くに跳んだよ。 ・ゴムの高さを高くしたら、高く跳べたよ。
5 協力して場を片付ける。(2分)	○安全に気を付けて、グループで協力して片付けるように声をかける。

(4) 場の設定

